

SDGs 未来都市等進捗評価シート

愛知県豊田市

2019年8月

SDGs 未来都市計画名

みんながつながる ミライにつながるスマートシティ

1. 全体計画

計画タイトル	豊田市 SDGs 未来都市計画
--------	-----------------

2030年のあるべき姿	“つながる つくる 暮らし楽しむまち・よた”の実現 「市民」…社会とのつながりの中で安心して自分らしく暮らす 「地域」…魅力あふれる多様で豊かな個性 「都市」…未来を先取る活力を持つ
-------------	--

2030年の あるべき姿の 実現に向けた 優先的なゴール	経済			社会			環境			
	ゴール5 ターゲット5.5 ゴール8 ターゲット8.3、8.5 ゴール9 ターゲット9.4	  	ゴール3 ターゲット3.6 ゴール11 ターゲット11.a ゴール17 ターゲット17.17	  	ゴール7 ターゲット7.2 ゴール12 ターゲット12.8 ゴール13 ターゲット13.3 ゴール15 ターゲット15.4	   				

優先的なゴール、 ターゲットに関する KPI	No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	家事の夫婦の役割分担の現状 「家事全般を夫婦共同で行う」と回答した人の割合【5.5】	2013年度	21.2 %	2030年	30 %	【2018年度実績】25.6% 割合は前回調査より高くなっているが、役割分担の「理想」についての回答では「共同で行うのがよい」と回答が74.6%となっており、理想と現状に乖離があることが課題となっている。
2	新製品、新技術等開発の取組件数（累計）【8.3】	2018年3月	9 件	2030年	70 件	【2018年度実績】20件 イノベーション創出の支援及びイノベーション創出に向けた新たな仕組みを構築する。また、金融機関、税理士等との連携を強化し、中小企業への支援施策の情報発信及び活用を促進する。	
3	女性しごとテラスにおける就職件数【8.5】	2018年3月	1 件	2030年	100 件	【2018年度実績】85件 引き続き、プロモーションも含めた認知度向上と、利用者が就職決定に至るまでの支援力の強化に努める。	
4	就労支援室における就職件数(年間)【8.5】	2018年3月	292 件/年	2030年	290 件/年	【2018年度実績】302件 若年者、シニアなど多様な求職者のニーズに対応できるよう、引き続き、体制強化に努める。	
5	中核製材工場における原木取扱量（年間）【9.4】	2018年新規		2030年	45,000 m ³ /年	【2018年度実績】15,490m ³ /年 路網等、生産基盤の整備を進め、木材流通量を増加させていく。また、引き続き、地域材流通組織や森林組合等の地域材関連団体と連携し、流通体制の構築を図る。	
6	農商工連携取組件数及び6次産業化認定事業者数の件数【9.4】	2018年3月	31 件	2030年	45 件	【2018年度実績】35件 引き続き、ビジネススクールや商談会等を通じた6次産業化の動機付け、農商工連携・販路拡大支援を行う。	
7	先進技術実証 新規の実証事業（交通まちづくり・つながる社会実証）【9.4】	2018年3月	交通まちづくり 4件 つながる社会実証 8件	2030年	毎年度 計3 件	【2018年度実績】交通まちづくり 5件 つながる社会実証 9件 引き続き技術や社会受容性、安全性などの検証のための実証実験を推進する。	
8	交通安全の意識が高まった高齢者の数（市啓発分）【.6】	2018年3月	13,293 人	2030年	毎年度 5,000 人以上	【2018年度実績】11,782人 目標値を上回る数の高齢者の意識が高まっている。今後も時事にあった啓発を続けることで、目標を達成できる見込み。	
9	都市と山村の交流コーディネート件数（累計）【11.a】	2018年3月	48 件	2030年	累計560 件	【2018年度実績】124件 引き続き、相談窓口機能を持ちながら、人材創造拠点「つくラッセル」や里山くらし体験館「すげの里」を活用しながら交流を拡大していく。	
10	山村地域へ移住・定住者数（市支援分）【11.a】	2018年3月	229 人	2030年	260 人	【2018年度実績】136件 都市部住民の田園回帰傾向は定着化（若年層は拡大傾向）しているとともに、ライフスタイルで移住先を選択する傾向にあるため、多様なニーズに対応する相談体制・対応を図る。	
11	豊田市つながる社会実証推進協議会 会員数（累計）【17.17】	2018年5月	52 団体	2030年	3 団体/年 加入	【2018年度実績】65件 SDGsの活動拠点の1つである協議会への登録企業数は順調にのびている。今後、SDGsを踏まえた取組を推進していく。	
12	再生可能エネルギーの総発電能力量（市導入・関与分）【7.2】	2018年3月	88,997 kW	2030年	110,000 kW	【2018年度実績】91,187kw FIT切れが始まるいわゆる「2019年問題」が間近に迫るなか、蓄電池を活用した自家消費の促進など、FIT制度に依存しない再エネ普及策を推進していく必要があり、VPPを始めとした地域電力について検討を進める。	
13	環境配慮行動に取り組んだ世帯数（市事業分）【12.8】	2017年3月	3,156 世帯	2030年	58,700 世帯	環境に関する理解度や環境学習施設が実施する企画の参加人数が伸びており、持続可能な社会を支える環境配慮行動の関心が高まっていると考えられる。引き続き、インタープリターやボランティアを育成し、より多くの市民に環境の大切さを伝えていく。	
14	広域連携及び先進技術実証事業の件数（累計）【13.3】	2018年3月	8 件	2030年	20 件	【2018年度実績】14件 広域連携：西三河首長誓約推進協議会を中心に事業の検討、実施を行っていく。 先進技術：引き続き、新規会員、実証を募り、協議会の活性化、ビジョンに基づく直近10年間の取組を具体化するため、WGの活動を進める。	
15	人工林の間伐実績面積（年間）【15.4】	2018年3月	969 ha/年	2030年	1,200 ha/年	【2018年度実績】960ha/年 森林環境譲与税が創設され、市町村の森林施策が目される。新たな財源も活用しつつ着実に間伐を推進する。	

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 【第8次豊田市総合計画】 前期実践計画（2017-2020）、後期実践計画（2021年—2024年）からなる8年間の計画。 前期実践計画をSDGs未来都市計画のアクションプランと位置付けており、2018年度に前期実践計画事業に対し、SDGsとの関連付けを実施。後期実践計画には、策定の段階よりSDGsを明確に反映させていく。 【総合計画に連動する部門計画】 各種、部門計画については、改定のタイミングにあわせて、随時、計画へ反映。 ■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 庁内の横断的・統合的なSDGs推進のため、首長を本部長とした未来都市推進本部会議を設置。当市が有するプラットフォームを活用しながら、市民、企業、学術機関、団体、近隣自治体、国際関係機関等、多様なステークホルダーを巻き込みながら推進を目指す。</p>	<p>■域内向け 職員対象・・・SDGsの理念や概念を理解するため、全職員に対しE-ラーニング（7月）、SDGsカードゲームを活用した研修（8月）、「とよたエコフルタウン」のリニューアルコンテンツ選定・作成に各所属が関わることで基礎知識の定着を図った。 市民・企業対象・・・普及啓発ツールとしてSDGsストラックアウト、SDGsハットを制作。イベントや学習会等で活用し、SDGsに触れる機会と理解促進の場を提供（産業フェスタ、エコプロ2018、とよたビジネスフェアでのPRブース出展等） ・「Think SDGs」中小企業向けセミナー（企業40人）、イベント開催（一般150人） ■域外（国内）向け ・SDGs情報発信拠点「とよたエコフルタウン」のリニューアル（4月）に向けたパビリオンのコンテンツ等を検討し、制作。 ・RWC2019のに来訪者をターゲットとしたPRを検討（プロモーションイベント、燃料電池バスSORA導入・活用等） 【課題】SDGsの認知度は、関心のある企業等に限定され、市民レベルには、なかなか浸透しない。今後は、市民の生活に密着したところでSDGsの「見える化」が図れるよう、多様なステークホルダーを巻き込んだ仕組と方策を検討していく。</p>	<p>有識者からの取組に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援、産業、女性支援、交通、山村支援をスマートエネルギーなど中核事業と繋げる意欲的な政策検討を行っていることは高く評価される。「豊田市つながる社会実証推進協議会」と「おいでん・さんそんセンター」の2つのプラットフォームが幅広い産官学連携の行動の中核となることを期待する。 ・GRP、生産額、所得額、地方税収など、経済面のKPI、またQOLの中核要素に関連したものを社会面のKPIに入れるなど検討いただきたい。 ・優先的なゴールに関するKPIは具体的で良いが、豊田市の活動目標がやや具体的すぎる感じもする。2030目標は、例えば、地域活性化、女性活躍、森林資源などでまとめていくことも適当であると思料する。
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■地域内の連携 1 二大プラットフォームの連携 ○豊田市つながる社会実証推進協議会・・・ 2018年3月末時点で65団体、新規実証9件。 ○おいでん・さんそんセンター・・・ 2018年度都市と山村の交流コーディネート件数 124件 2 学術機関（大学・高専等の高等教育機関）との連携・・・ 各大学との連携実績 愛知学泉大学 20件、愛知県立芸術大学 6件、愛知工業大学 36件、中京大学 47件、日本赤十字豊田看護大学 15件、豊田工業高等専門学校 29件 3 公共施設及び利用者、活動団体等との連携 SDGs発信拠点「とよたエコフルタウン」、ものづくり創造拠点「SENTAN」、人材創造拠点「つくラッセル」など拠点施設で活動する団体や人の交流事業（SDGsスタディツアー）を実施し、異なるステークホルダー連携の重要性に対する理解が深められた。 ■自治体間の連携（国内） 地方創生SDGs官民連携プラットフォームを通じた情報収集やメルマガを活用した情報発信（とよたエコフルタウンのリニューアル）、豊田市への問合せや視察を通じ、全国の自治体とのつながりができたが、西三河地域の域内連携は、今後の課題。 ■国際的な連携 国連地域開発センター（UNCRD）と共催し、とよたビジネスフェアにてSDGsのPRブースを出展。 「EU国際都市間協カプロジェクト」のパートナー都市としてグルノーブル（フランス）へスタディツアーとして現地訪問。</p>	<p>今後取組む以下の5つの課題に対して、SDGs未来都市計画における豊田市のSDGs推進2大プラットフォーム（豊田市つながる社会推進協議会、おいでん・さんそんセンター）の連携、取組の強化を図りながら、各項目のとおり貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 超高齢社会の進展 ・都市と山村部の共存や、高齢化の加速による社会課題の解決に向けて、新製品・技術等の開発、山村地域の資源活用の機会を創出する ・都市と山村間における良好なつながりによる超高齢社会への適応 2 産業構造の大転換 ・次世代自動車の開発拠点としての技術やノウハウを生かし、ものづくりをリードする 3 大規模自然災害等のおそれ ・先進技術実証を生かしたエネルギーの地産地消や再エネ活用等による二酸化炭素排出量削減 ・市民や事業者それぞれのスタイルに応じた環境配慮行動の促進 4 厳しさを増す財政状況 ・地域資源を活用した産業の多角化推進 5 人・地域・技術の有機的なつながりの不足 ・多様な人や企業の活動と連携の推進（自助・互助・共助） 	

1. 全体計画

取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	5.5	女性の活躍を支援する取組が役立ったと感じた参加者の割合 (市実施分)	2018年3月 75 %	2018年度 94 %	2020年 70 %を維持	 -50% 0% 50% 100% 134%	(達成度 = 2018年値 / 2020年値の計算式を使用) 女性活躍の推進のため、「起業」、「企業等でのキャリアアップ」、「地域活動などへの社会活動進出」の意欲促進のための事業を想定どおりに実施できた。今後、社会や地域活動に復帰する時期を早め、自己実現を実感できる女性が増える取組を実施していく。
	8.3	新製品、新技術等開発の取組件数 (累計)	2018年3月 9 件	2018年度 20 件	2020年 30 件	 -50% 0% 50% 100% 52%	イノベーション創出の支援及びイノベーション創出に向けた新たな仕組みを構築する。また、金融機関、税理士等との連携を強化し、中小企業への支援施策の情報発信及び活用を促進する。
	8.5	女性しごとテラスにおける就職件数	2018年3月 1 件	2018年度 100 件	2020年 100 件	 -50% 0% 50% 100% 100%	引き続き、プロモーションも含めた認知度向上と、利用者が就職決定に至るまでの支援力の強化に努める。
	8.5	就職支援室における就職件数 (年間)	2018年3月 292 件/年	2018年度 302 件/年	2020年 290 件/年	 -50% 0% 50% 100% 104%	(達成度 = 2018年値 / 2020年値の計算式を使用) 若年者、シニアなど多様な求職者のニーズに対応できるよう、引き続き、体制強化に努める。
	15.4	人工林の間伐実績面積 (年間)	2018年3月 969 ha/年	2018年度 960 ha/年	2020年 1,200 ha/年	 -50% 0% 50% 100% 80%	(達成度 = 2018年値 / 2020年値の計算式を使用) 課題の1つは、担い手不足である。団地化と間伐を着実に推進するとともに、担い手の確保育成策を講じていく。
	15.4	中核製材工場における原木取扱量 (年間)	(2018年新規) m/年	2018年度 15,490 m/年	2020年 35,000 m/年	 -50% 0% 50% 100% 44%	(達成度 = 2018年値 / 2020年値の計算式を使用) 路網等、生産基盤の整備を進め、木材流通量を増加させていく。また、引き続き、地域材流通組織や森林組合等の地域材関連団体と連携し、流通体制の構築を図る。
② まちといなかの魅力、人のつながり、生きがいの創出	9.4	先進技術実証 新規の実証事業 (交通まちづくり・つながる社会実証)	2018年3月 交通まちづくり 4 つながる 件 社会実証 8	2018年度 交通まちづくり 5 つながる 件 社会実証 9	2020年 毎年度 計3 件	 -50% 0% 50% 100% 467%	(達成度 = 2018年値 / 2020年値の計算式を使用) 引き続き技術や社会受容性、安全性などの検証のための実証実験を推進する。
	11.a	都市と山村の交流コーディネート件数 (累計)	2018年3月 48 件	2018年度 128 件	2020年 160 件	 -50% 0% 50% 100% 71%	引き続き、相談窓口機能を持ちながら、人材創造拠点「つくラッセル」や里山くらし体験館「すげの里」を活用しながら交流を拡大していく。
	11.a	豊田市つながる社会実証推進協議会の会員総数	2018年5月 52 団体	2018年度 65 団体	2020年 61 団体	 -50% 0% 50% 100% 144%	SDGsの活動拠点の1つである協議会への登録企業数は順調にのびている。今後、SDGsを踏まえた取組を推進していく。